

「富山市立図書館ビジネス支援への第一歩 出来ることからはじめよう！」

山崎智子
富山市立図書館

1. 富山市の現状

富山県のほぼ中央から南東部分までを占める富山市は、北には富山湾、東には立山連峰が連なり、平野部は豊かな農耕地帯が広がっている。江戸時代には和紙や越中売薬などの産業が奨励され、現在でも薬業が盛んである。また、豊富な河川による電力を基盤とした工業の町という面も持っている。昭和20年の戦災により大きな被害を受けるが、戦後の都市整備や産業経済の発展により復興をみた。平成17年には、富山市・大沢野町・大山町・八尾町・婦中町・山田村・細入村が合併し、新しい富山市となった。

人口は、416,697人、世帯数は178,422世帯である。(2019年2月末現在)富山市では高齢化が進み、現在65歳以上が人口の28%を占めている。

「富山市将来推計報告書」によると平成37年(2025)には40万人を割り込み、そのうち老年人口(65歳以上)は同年には総人口の30%を超えるとの報告が出ている。また、合併町村のうち婦中地区を除き、高齢化と人口の減少が示されている。

この人口減少と高齢化社会への対応のため、〈コンパクトシティ〉を重要な都市政策として実施している。これは 1. 公共交通の活性化 2. 公共交通沿線地区への居住促進 3. 中心市街地の活性化 を三本柱としているものであり、〈人と地球環境に優しいまちづくり〉を進めている。

2. 富山市立図書館の現状

富山市立図書館は旧富山市で昭和45年(1970)に開館し、平成17年(2005)には近隣町村立図書館と合併した。現在、本館1館、地域館6館(旧町村立図書館)、その他分館等18館、自動車文庫2台を有している。

本館は平成27年(2015)に新館を移転開館した。その際、銀行と富山市ガラス美術館との複合施設となった。場所は富山市中心部となり、にぎわい創出拠点の一つとなるよう『第2次富山市総合計画』のまちづくりの目標〈人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち〉のなかにも述べられている。

図書館の基本理念の一つとして「地域を支える情報基盤」の中にビジネスについて触れていることから、調査相談の一つとして調査係を中心に、現在は以下の事業を実施している。

① 展示 通年(年6回)

「ビジネスマンの社会学」「新社会人のビジネスマナー」など

- ② 創業ビジネス相談（よろず支援拠点による経営相談）月1回
参加人数 平成29年度 31名
平成30年度 28名
- ③ はじめての起業・創業セミナー（よろず支援拠点との共催）年1回
平成29年度「あたらしいはたらきかたはじめよう」81名
平成30年度「わたらしいはたらきかたはじめよう SNSの活用で認知度アップ」49名
- ④ はじめての起業・創業ミニセミナー（よろず支援拠点による少人数セミナー）年3回
- ⑤ パネル展示（日本政策金融公庫）年1回

その他、ハローワーク求人情報（週2回）の掲示や市内の各種イベントやセミナーのチラシ配布を実施している。上記の事業は、レファレンス業務の一環として、調査係が担当しているが、③のセミナーは当館の交流行事運営委員会（※1）の行事と位置付けて委員会と各行事を担当する読書推進係の協力を得て行っている。

現在のところ、図書館が主催となって行っているセミナーなどはなく、よろず支援拠点の相談窓口としても場所を提供するのみとなっている。

3. 富山市立図書館が出来ること

(1) 場の提供

富山市では起業家への支援としてチャレンジミニ企業団地やインキュベータオフィスなどものづくりや都市型産業の起業の場を準備している。ほかにも新産業支援センターを拠点として産学官連携の起業家やベンチャー企業などの育成に取り組んでいる。富山市では、商工業事業所の新規開業率を平成26年度の5.9%から7%に、新規事業所開設による雇用者数の20%増加を目標数値に設定している。（※2）そのための少人数制の起業・開業勉強会なども開催されている。

しかし、現状これらの施設は実際に目的を持って起業を考えている人には有効であるだろうが、〈これから〉〈なにか〉始めたいという起業家を目指そうという人にとっては敷居が高いのではないだろうか。

「平成30年度 政策提言書 地域内経済循環の促進によるまちづくり」（富山商工会議所青年部）によると「富山市の開業率は3.7%（全国平均5.2%）」とのことであり、実際に起業への壁があることが伺える。

そこで、まず起業への最初の相談場所として図書館を活用してもらうよう働きかけたい。図書館には、いろいろな業種への入門となる資料が揃っており、〈なにか〉を探すには非常に有効な場であると考えられる。また、上記の企業団地や支援センターは郊外にあり、富山市中心部にある図書館は気軽に訪れることができる場であると

いえる。

一方、図書館側としても、相談時に職員が立ち会うことで起業を考えている人にはどのような資料や情報が有効なのか、需要があるのか知ることができ、その相談時以降の図書館利用に結び付けたい。あくまで事前相談の場であり、その後は起業内容に応じた先での取り組みにつなげていくことから、司書のビジネス相談に対する苦手意識を薄めることが期待できると同時に、これまで縁がなかった分野の外部機関との連携ができるのではないかと考える。

(2) 学生への起業PR

富山市企画管理部が主催している〈ありだね富山〉は富山で暮らすこと、働くことを考えるプロジェクトであり、現在は市役所やMAG.net 富山まちなか研究室(※3)を活動場所としていて、随時、参加者を受付している。平成31年(2019)3月に進路選択を主題とした「ありだね!講演会」や富山で起業した先輩に話を聞くワークショップを開催し、働く場所・暮らす場所としての富山を考えるイベントを実施。その中でUターンして起業した人、Iターンで就職、起業した人の話を聞く機会が設けられ、中高生が15名ほど参加した。

また、富山商工会議所青年部による「政策提言書」の提言の一つとして「目指そう!起業のまち、富山市」を掲げ富山市内での起業を増加させるための施策を提案している。(※4) 創業支援の取り組みとして

① 起業したいまち、富山市 - 起業マインドを「ゼロ」から「イチ」に

② 起業しやすいまち、富山市 - 富山市版「起業支援拠点」の整備

を柱にさまざまな提案を行っている。特に「潜在的起業希望者」「過去の起業関心者」「起業無関心者」への働きかけを重視している。

注目したのは、小学生から大学生、専門学校生という学生を対象とした提案である。将来の職業選択の一つに〈起業〉という選択肢を持ってもらうため、学生へのアプローチを行うというものだ。開業率が低い理由として、まず〈起業〉が職業の選択肢として認識されていないことを取り上げ、学ぶ機会を作りたいという。そこで、現在行われている社会見学や職場体験のほかに起業体験の場を作りたいとのことである。

このような学生対象のイベントや体験を行う際に有効に活用できるのが図書館であると考えている。図書館を活動拠点の一つとすることで、図書館に学習利用に来ている多くの高校生に活動を知ってもらうことができるのではないかと。前述した〈ありだね富山〉のようなプロジェクトを図書館内で学生に向けて企画・実施することでより多くの学生へ周知することができるだろう。一方、同世代の学生がこのような活動をしていることを知ることで、学習利用のみを目的として来館している高校生がさらに視野を広げ将来を考えるきっかけを作ることができ、他校生や先輩たち

とのつながりを持つ機会になり得るのではないかと考える。

小学生に向けては、分館を含め図書館学習を毎年実施していることから図書館は身近な存在であり、利用者も多い。仕事に関する本の所蔵も多く、授業で仕事や働くことを学ぶこともあり、働くこと自体への関心は高いと思う。しかし、中学生になると部活動や勉強で、図書館に来る時間や機会が減っている。図書館の活用のためにも、以下の事業を実施することで起業や将来について考える機会を設けたい。

① 子供プログラミング教室

富山大学の地域連携推進機構の活用、専門学校との共同開催を検討

② 夏休み中高生起業家ワークショップ

実際に市内で起業した人の話を少人数で聞く機会をつくる

③ 高校生ビジネスプラングランプリへの支援

④ 高校生ビジネスプラングランプリの展示と参加者による解説

富山市内または県内で日本政策金融公庫のベスト 100 に入った事例を紹介し、高校生がどのように社会に関わっているのかを知ることがを目的とする。

特に高校生ビジネスプラングランプリについては、中学生にとって身近である進学を考える際に、高校生活で何をなしえるのかを考えるきっかけになればいいと考える。また当館でも広島市立図書館のように高校生のビジネスプランを作成するための図書館活用法やデータベースの活用法などを行いたい。これらの活動を通し、将来に役立つ図書館という意識を持ってもらうことができるのではないだろうか。

学生のうちから起業するということを就労の一つとして認識することは、個々人の特性を活かす活動につながり、富山市のまちづくりの目標〈すべての人が輝き安心して暮らせるまち〉〈人が集い活気にあふれ希望に満ちたまちづくり〉に活かされるものであると考える。

(3) スポンサー企業の活用

現在、富山市立図書館所蔵の雑誌に 144 社の雑誌スポンサーがついているが、企業や商店の方に広告以外のメリットがない状態である。新たにスポンサーになりたいと申し出があることもあるが、実際のところは本館開館から 3 年過ぎた頃からスポンサーの減少が起きている。

製造業や製薬業、サービス業、商店など幅広い分野の業種の方に参加してもらっているので、図書館でのワークショップや仕事の紹介、セミナーなどを開催したい。例えば、製薬業であれば薬や売薬の歴史について、サービス業であれば接客、商店であれば開業や長く続けるということなど、さまざまなテーマが考えられる。このようなセミナーなどを開催することで、企業側にとっては会社や業種を PR することができ

るメリットがあり、図書館利用者にとっても実際に働いている人の声を聞き、働くということやその業種を知るきっかけにもなり、また図書館にとっても企業側にメリットがあれば、スポンサーの継続と増加につながることを期待する。

(4) 職員の育成

富山市立図書館では、現在、ビジネス支援にかかわる事業は調査係（係員5名のうち

主務者1名）が担当している。上記にあげたような事業を展開するとなると厳しい点もあるが、当館ではイベントに類する行事については先にも触れたように〈交流行事運営委員会〉の事業として取り扱い、実質はその委員会を担当している読書推進係が企画立案し開催している。また富山市ではレファレンス窓口には係によらず全司書を配置しているため、係を越えての様々な対応が求められる。そのため、毎月の館内研修で行事の進め方や進行の仕方などを取り上げて、職員のスキルアップを図っている。ほかにも、経験の浅い職員に対しては、自分の館にどんな資料があるのか、どのように使えるのかを知るためのレファレンス研修を行っている。

しかし、現在の研修は内部講師のため、ビジネス支援に必要なスキルが十分とは言えず、外部研修や外部からの講師を活用していく必要があると考える。実際に、現在ビジネス支援を主に担当している職員は、「ビジネス支援サービスの可能性」を取り上げた公共図書館研究集会に参加したことで、ビジネス支援に対する知識が深まり、展示企画やデータベースの活用にも積極的に取り組んでいる。このことから、図書館全体での意識を高めるためにも積極的な研修への参加に取り組みたい。

4. 終わりに

今回のレポートでは、図書館の〈誰でも使える〉という特性を活かし、起業という働き方があることを知ってもらい、次につなげるということを中心に検討した。

このレポートでは触れなかったが、課題として富山市の現状にも記述した通り郊外地域での人口減少が顕著であり、図書館利用数も減少する傾向にある。富山市としても中山間地域の振興を掲げており、本館以外での支援体制の強化を考える必要がある。

第18回ビジネスライブラリアン講習会を受講し、まず一番大きく心を動かされたのは「ビジネス支援は特別な業務ではなく、恐れることはない」という言葉であった。これまで〈ビジネス支援〉という言葉が包み込む多岐にわたる内容に怖気づきそうにもなるが、司書としてこれまで〈レファレンス〉として行ってきた実績を考え、できることからはじめようという意欲に結び付いた。

【注】

※1 交流行事運営委員会 平成27年発足。市民への読書普及と図書館の利用を促進する

ため「図書館交流行事」を実施し、あわせて中心市街地等のにぎわいの創出に貢献していくことを目的とする。委員は、生涯教育等有識者、図書館協議会委員、まちづくり団体関係者等で構成している。

※2『第2次富山市総合計画 本編』（p.148 新たな価値を創出する産業づくり）

※3（株式会社まちづくりとやま）が運営 まちと若者をつなげる場を提供している。

※4「平成30年度 富山商工会議所青年部 政策提言書 地域内経済循環の促進によるまちづくり」（pp.9-18）

【参考資料】

富山市将来人口推計報告書（富山市 平成27年）

<http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/16799/1/H27jinkousuikei.pdf>

第2次富山市総合計画2017-2026 概要版

<http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/16799/1/sougoukeikakugaiyou.pdf>

第2次富山市総合計画 本編

<http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/16799/1/sougoukeikakuhonnpenn.pdf>

「平成30年度 富山商工会議所青年部 政策提言書 地域内経済循環の促進によるまちづくり」（平成30年度富山商工会議所青年部政策提言研修委員会）

『新規開業白書 2018年版』（日本政策金融公庫総合研究所/編 2018.7）

『新規開業白書 2016年版』（日本政策金融公庫総合研究所/編 2016.6）

『中小企業白書 2017年版』（中小企業庁/編 2017.6）

『中小企業白書 2018年版』（中小企業庁/編 2018.6）

『小規模企業白書 2017年版』（中小企業庁/編 2017.6）

『支え合う図書館』（青柳英治/編著 勉誠出版 2016.1）

『困ったときには図書館へ』（神代浩/編著 遥光堂 2014.10）